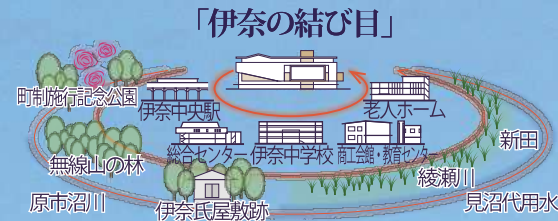


まちへひらき、「伊奈の結び目」となる庁舎



—伊奈氏が築き発展してきた「自然と共にある営みの風景」と「町民の活動」を”結ぶ”新たな拠点—

伊奈のまちを見渡すと遠くには、日光連山の雄大な山並みを背負い、伊奈氏が築いた河川の安全の上で、「平地林」や田畑、住居など、人々の営みが重なり合う風景を生み出しています。この自然と人々の営みが親密に関わりあう、ここならではの風景が、「伊奈町らしさ」を生み出しているといえます。

さらに町民サービスの核として、単に個別の目的に完結するだけではなく、庁舎サービスと図書館サービスが時として関わり融合する仕掛けによって、“結び合い”ひとつにまとめることが大切であると考えます。私たちは、この伊奈特有の自然の風景と町民の交流が結び合う、新たな「伊奈の結び目」となる庁舎を提案します。



南側から新庁舎を望む 知の結び目が屋内から周辺を含め活動を結ぶ

基本的な考え方

まちの風景と活動を「ひとつ」にまとめる「伊奈の結び目」

遠景：伊奈の景色を望む
中景：互いの活動が見える
近景：周辺環境と繋がる

伊奈町と知の結び目

①複合のメリットを最大化する「知の結び目」

本や資料の拠点として「知の結び目」を施設中央に配置することで、様々な町民サービスを繋ぎます。

②まちに「開かれた庁舎」をつくる

「知の結び目」を建物の中心に配置することで、低層階がまちに開かれた庁舎をつくる

③本や資料を活用した賑わいの拠点「伊奈ギャラリー」

伊奈ギャラリー 本や資料を活用し、伊奈町のひと・まち・風土を学び・発信する「伊奈ギャラリー」をつくる

重視する三つの基本的な考え方



東側から新庁舎を望む ひろばを利用したイベント時の風景



ひろばから新庁舎を望む 障子堀ユニット(可動家具)を屋外にも展開することで賑わいを生み出す

転載禁止

(様式18) 提案概要書

